



### 熊本地震

## 復興支援 未来への教訓 (下)

GW三島と日本ステンレス



住民主体の救助活動で8人の命が救われた大切畑地区。地震後は自警団を結成して地域を巡回している＝4月、熊本県西原村(GW三島提供)

# 地域コミュニティー 結束力の差

熊本県西原村の大切畑の死者も出さず、「奇跡中、町内会役員や消防団(おおきりはた)地区はの集落」と呼ばれた。グ員らが発電機を持って各の役割を果たしながら復た姿が印象に残っているとだ。「軽い屋根の2階建てにして上で寝よう」

4月16日に発生した震度7の本震で28戸中25戸が全半壊したが、住民主体の迅速な救助活動で一人

4月16日に発生した震度7の本震で28戸中25戸が全半壊したが、住民主体の迅速な救助活動で一人

4月16日に発生した震度7の本震で28戸中25戸が全半壊したが、住民主体の迅速な救助活動で一人

日頃から住民同士の結びつきが強い集落。年4回の防災訓練を欠かさず、各家庭の家族構成が家の間取り、寝ている部屋まで把握している。「どこを壊せばいいか」を即座に判断し、重機による救出作業がスムーズに進んだ。命を救われた住民たちは「日頃の団結がなければ間違いなく死んでいた」と口をそろえていたという。

翌日から住民自ら避難所に炊き出し場を設け

「どこを壊せばいいか」を即座に判断し、重機による救出作業がスムーズに進んだ。命を救われた住民たちは「日頃の団結がなければ間違いなく死んでいた」と口をそろえていたという。

翌日から住民自ら避難所に炊き出し場を設け

「どこを壊せばいいか」を即座に判断し、重機による救出作業がスムーズに進んだ。命を救われた住民たちは「日頃の団結がなければ間違いなく死んでいた」と口をそろえていたという。

翌日から住民自ら避難所に炊き出し場を設け

み、1階部分  
分が押しつぶされてしま  
まった住民